

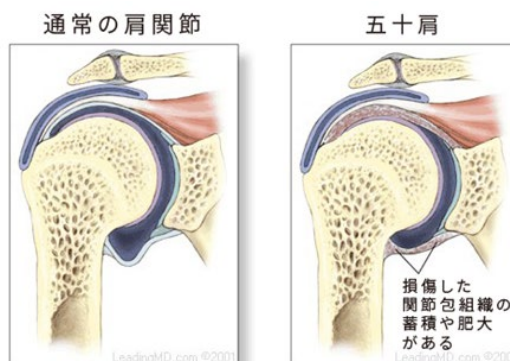
サイレント・マニピュレーションの説明と同意書



運動痛



夜間痛



肩関節拘縮とは何らかの原因（原因がない場合もあります）で肩関節の動きが悪くなり、動かすと痛かったり、夜間痛みのために眠れなくなったりする症状です。

医学的には**肩関節周囲炎（五十肩）**などに起こります。リハビリをしても症状が良くなるまでに2～3年かかることもあり、半数の人は症状が残るとの報告もあります。

病態としては**肩関節を包む関節包という組織が厚くなり、縮むため**で、内視鏡で手術することもあり、私も長く関節鏡による手術を行ってきました。しかしながら入院の上全身麻酔をしなければなりません。

当院では外来で**超音波エコーガイド下に安全に肩関節周囲の痛みをとる部分麻酔**を行います（歯の麻酔と同様に肩周囲の麻酔）。15分ほどベッドで安静にさせていただくと肩関節周囲から肘にかけて麻酔が効いてきます。人によっては注射した腕全体の感覚が一時なくなる方もいますが、元に戻りますので心配はいりません。痛みがない状態で医師が肩関節を動かして縮んだ関節包を広げ、関節の動きを改善します（**サイレント・マニピュレーション**、保険病名では**非観血的関節授動術**）。

意識がある状態で行い、その日のうちに帰宅できます。まれに麻酔がよく効いて肩から腕にかけて力がはいらない方もいますが数時間のうちに麻酔は切れます。この場合は三角巾で腕を吊って帰っていただく場合もあります。



☆ 適応とされる患者様

リハビリを行っても肩関節の動く範囲の制限や痛みが改善せず、夜間痛や衣服の着脱など日常生活に支障がある方。

適応とされない方

80歳以上の女性のかた、あるいは骨粗鬆症で骨折の既往がある方

局所麻酔剤にアレルギーのある方、慢性の呼吸器疾患がある方

留意すべきこと（最も重要）

広がった関節包は動かさないと再度縮んで引っ付いてしまいます（生体の修復機転）。そのためマニピュレーション施行後も一定期間はリハビリを継続して行うことが重要です。

副作用と対策

- (1) 感染：非常にまれですがマニピュレーション施行の前に行う麻酔の注射によって菌などが侵入することがあります。
- (2) 脱臼・骨折：動きが硬くなった肩関節を動かすために上腕骨骨折や肩関節脱臼を起こす場合があります。高齢の女性や骨粗鬆症が高度の方に起こることがほとんどのため、施行前に危険性がないかを医師が判断します。
- (3) 局所麻酔剤を使用するためにまれにふらつきや血圧低下、呼吸苦などの症状が出現する場合があります。状況により点滴を行いしばらくベッドで休んでいただくこともあります。

治療の所要時間（外来滞在時間は1.5～2時間前後）

流れ：施行前の診察とエコー、体位などの準備（20分）、麻酔処置（15分）、麻酔が効くまで安静（15分）、医師によるマニピュレーション施行（10分ほど）、理学療法士による運動器リハビリ（20～40分）

そのため、時間に余裕をもって行うために施行日・予約時間を決めて行う場合もあります。

治療期間

術後のリハビリ、定期的な診察や注射など3カ月程度の通院が必要です。

同意書

はしもと整形外科クリニック 殿

私は「サイレント・マニピュレーションによる治療」の説明を受け内容を理解し、
治療を受けることに同意します

令和 年 月 日

患者氏名

説明医師 はしもと整形外科クリニック 院長 橋本 卓
